五三会

広島工業大学建築学科同窓会
第10号　昭和58年度版

目　次　1

会員の皆様へ「より一層の結束を」……菅原辰幸……1

「朋　友」……吉田亜夫……1

建築学科の近況とお願い……林　公重……2

五三会近畿支部結成準備総会……3

関西支部設立について思ふ……平口祐二……4

設立までの経過……大森正夫……5

超高層ビル雑感……杉本賢二……6

近況報告……藤井　洋……7

新春放言・御一筆……三吉幸夫……8

1枚のメモから……宮川謙吉……10

私の人生観……安野昌美……11

五三会学生部の活動について……住田陽俊……12

今、思うこと……松尾兆郎……13

第8回五三会コンペ入選発表……14

第9回五三会コンペ作品募集……18

目　次　2

第１０回総会のお知らせ …… 19
昭和５７年度就職内定一覧表 …… 20
五三会の皆様へ …… 佐　藤　立　美 …… 24
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿 …… 25
広島工業大学キャンパス案内 …… 26
昭和５６年度活動報告及び決算報告 …… 27
昭和５７年度予算案 …… 28
「五三会」会則 …… 29
役員の変遷 …… 31
会費の変更について …… 32
五三会第１０号スポンサー一覧表 …… 33
編集後記 …… 34

会員の皆様へ「より一層の結束を」

「五三会」会長
菅原辰幸
(44年卒)

会員の皆様、お元気で御活躍されておられますでしょうか。

今春には、母校広島工業大学建築学科の15期目の卒業生を迎えることになります。御指導の程よろしくお願いいたします。

五三会も結成して10年が経過いたしました。そして、ここにお届けする会報も10号をかぞえます。この時期に今一度、五三会の充実発展の方策を考える必要があるようです。

具体策としまして、年間会費を終身会費とすることが昨年決定され、本年度から実施されます。また、会誌や名簿の発刊に次ぐ事業として継続いたしております設計コンペも、昨年より他大学にも呼びかけオープンにしました。五三会が他大学をもリードする姿勢を打ちだしたわけです。以上のように努力をいたしておりますが、五三会の発展の基本的課題はやはり会員相互の強い精神的結束なのです。

各地域において五三会会員が連絡をとり合い情報を密とし団結され、それから各地域の情報あるいは様子がこの五三会誌にて全五三会会員に届けられるように望むものです。そうすることによって、全会員が互いに励まされ一層結束していくことになるのではないでしょうか。

身近かなところで連絡を取り合って下さい。そして、それらのニュースや意見を全五三会員に知らせて下さい。その為にこの会誌を利用願いたく思うのです。

最後に誌面をかりまして、近畿支部の結成についてお知らせいたします。大阪・京都などを中心にこの度、五三会近畿支部が結成される運びとなりました。結成に尽力されました方々にお礼申し上げると同時に、近畿地方の会員諸氏は事務局と連絡を取って下さい。

また、他域の同窓の諸氏も各地域で結束され支部を結成していただきたく望むものです。

「朋　友」

広島工業大学学長
吉田亜夫

新年おめでとうございます。皆さんも不況にめげず頑張っておられることと思います。

お屠蘇気分で賀状でも見ながら、同窓の朋友について感じていることを述べてみます。

この年になると、血縁、地縁、仕事の縁で不義理ができない先が、大げさに言うとグローバルに広がってきていますが、そのうち私が勝手に朋友と定義づけている少数の友人がいます。その大部分は、同窓で若い時から気心が知れて、遠方に居て滅多に顔を合わせなくても、お互いにあいつは今頃何をしてどんなことを考えているかが、大体察しがつき、また、たまに会っても二言三言交わしただけで当面の憂さが、吹っ切れるような連中です。

こんなことからでしょうが、同窓会も狭い範囲の会合出席が増えて、全体としての事業推進の時は別にして、全体の会合からは足が遠のき勝ちです。

恐らく、五三会、広工会等の良さもこの辺にあるのでしょう。その中には、必ず全体の同窓会などの役員を務める立派な仁がいて、私等だらしの無いのが迷惑にも、もたれかかっても結構全体とのつき合いもできるように一方的に思っています。

五三会を通じて、勘定抜きの交友関係が、大きく広がることを期待します。

略　歴

大正4年11月19日生（満65才）横浜市出身

学　歴　昭和12年　陸軍士官学校卒業
　　昭和19年　大阪大学理学部卒業

職　歴　陸軍多摩研究所所員としてレーダーの研究に従事し終戦に至る。
　　昭和21年　松下電器産業株式会社入社
　　昭和29年　松下電子工業研究所長
　　昭和33年　松下通信工業株式会社取締役研究部長
　　昭和46年　松下技研株式会社専務取締役
　　昭和54年　松下電器産業株式会社定年退職
　　以後56年2月まで、松下電子工業及び通信工業顧問

業　績　昭和29年に「受信管静特性計算法」の研究により大阪大学から工学博士の学位を受け、松下グループの各社において、主として通信機器関係の研究並びに研究指導に従事する。その間、昭和36年には発明協会より発明賞を受ける。

建築学科の近況とお願い

「五三会」顧問　林　公重

五三会の皆さん元気で御活躍のことと思います。

私は広島工業大学に参りまして約9年になり、曽根田教授退職後は五三会の顧問を仰せつかって居りますが、浅学非才その任に非ずと思って居ります。皆さんの御協力を得て何とか任を全うしたいと考えています。宜しくお願い致します。

扨て、私が新入りのため古い卒業生の方々には全くと言ってよい程面識がありません。去る昭和57年11月21日五三会近畿支部が発足するに際し、私と牛島助教授と2人御接待に与かり発会祝宴に出席させて頂きました。

今後もあちこちに支部ができ、益々発展拡充されることを期待し希望しております。古い卒業生の方々は、現在大学は!!建築学科は!!どのようになっておるのであらうかと、色々想像されておることと思いますので、先づ建築学科の近況をお知らせ致しましょう。

建物は昭和55年11月建築学科棟が完成しました。5階建ての実験棟及び4階建ての研究棟です。現在早や少し手狭ですが、過去を振り返ってみれば贅沢は言っておれません。その内少しづつ良くなって行くものと期待しております。

次に建築学科の構成は、当初、計画系のみで発足したようですが、現在は計画系・構造系・設備系から成り、各系教員も概ね揃い、もう少しで完成する予定です。教員構成には少々出入りがあり、最近では、昭和55年3月普根田教授、橘講師が退職され、昭和57年3月地井助教授が金沢大学教育学部へ栄転されました。又昭和55年4月浅野講師（工学博士、設備）、手越助手（構造）が着任、昭和55年9月谷助教授（計画）着任、昭和56年1月森保助教授（工学博士、計画）着任、昭和57年10月篠原助教授（工学博士、設備）が着任され、現在総勢16名で、その内訳は教授1名、助教授7名、講師6名、助手1名、技術員1名です。これを各系別にみますと、計画系7名、構造系6名、設備系3名ですが、近い将来構造系、設備系に教員2～3名、設備系、計画系に技術員各1名増員される予定です。これで一応建築学科としての形態を整える段階に達しますが、出来る丈早く完了したいものと思って居ます。

広島工業大学の建築学科はどんどん未来に向けて発展しています。今後卒業生の方々が来校されても、いろいろの面でお役に立ち得ると考えています。御遠慮なく来校され、各種設備の見学なり、質疑応答なりやって頂き、教員に現実の社会、実際の各種問題を教えて頂ければ、この上ない歓びであり、啓蒙にもなると思います。

尚建築学科は昭和55年度から準コース制を採り入れ計画系、構造系、設備系を置き、カリキュラムもそれなりに改訂しておりますが、大所高所から考えますと功罪半ばするように思われます。

大略以上が建築学科の近況です。広島或は広島近郷にお立寄りの節は是非来校され現在の建築学科の有様を御覧頂き度いと思います。

最後になりましたが、私は近年毎年大阪附近に就職開拓に出向きますが、開拓は仲々困難で、大企業には、何とか少しづつ食い込んで居ますがこれには限界があります。加うるに中小企業の情報は得難く、是非共卒業生の皆さんのお力を借りて新卒業生の就職に万全を期したいと思っています。

宜敷くお願い致しますと共に健康には十二分に留意され御健闘をお祈りしています。

五三会近畿支部結成準備総会開催さる

昭和44年の第1期生卒業以来、五三会会員の数も昭和56年卒業者をもって2,588名を数えるに至りました。

卒業生の大部分は広島を中心とした地域の職場で活躍されておりますが、遠く母校を離れた関東・近畿・四国・九州などの各地で活躍されている卒業生もかなりの数にのぼっています。

これらの卒業生は、地理的に五三会の行事への参加や母校との交流などがむづかしいことから同窓生同志会う機会も少なく会員相互の交流も数人の範囲に限られている場合が多いようです。

この度、大阪・京都の会員が中心となり昭和57年11月21日、大阪紙谷ビルにおいて五三会近畿支部結成準備総会が開催されました。当日は近畿地方在住の会員41人が集まり母校からも林公重顧問をはじめ先生方も参加され、和気あいあいにかつ盛大に行なわれました。

今後、より一層の「五三会」発展のために、またより身近な同窓会となるためにも関東・四国・九州などの地域においても支部が結成されることが期待されています。

支部設立について思う

「五三会」近畿支部
会長　平口祐二（44年卒）

「五三会」近畿支部会長を務めることとなりました、平口です。

今日、始めてお目にかかる方も、懐しい顔ぶれの方も、ここにおられる皆様は、広島工業大学、建築学科の同窓生という縁で結ばれた方ばかりです。また、御都合がつかず、この場に御出席願えなかった方々も「五三会」の仲間であります。

さて、広島工業大学、建築学科も14期目の卒業生を送り出し、学科同窓会である「五三会」も結成されて10年を向かえようとしております。近畿地区に住む我々の耳元にも、広島の五三会本部の活躍ぶりが聞こえて来ています。その間、近畿地区で何もなかったわけではないのです。「五三会」という大きな規模ではございませんが、各会社単位に広島工業大学同窓生が集まって忘年会・新年会を催したり、気の合った10数人の同窓会を設けていたり、漠然としてはいましたが、母校について、また職場でのことについて議論等を行っておりました。

母校、広島工業大学の地を離れた近畿地区で、活動を共にしている私たちは、特に、同窓生同志の連絡の場の必要性、近畿地区に職場を定めようとする後輩を迎える場の必要性を感じていると共に、また母校、広島工業大学との連絡の必要性も感じています。例えば、知識とか技術の交流、つまり情報交換の＜場＞の設立ということです。私たちの様に建設業界にある者は、忙しさにかまけて設計者として、施工者としての自分自身に対して純粋な批判・反省の機会がどうしても乏しくなります。一方、大学におられる先生方につきましては、逆に、実際的なものに携わる機会が少なく、理論面だけを強く押される傾向があります。この両者の短所を補い長所を生かせる様な＜場＞の設立ということが望まれていた訳です。

以上の様なことで、この度、この様な会が出来上がったわけですから、この縁を大切に親睦を温め、母校、共々より一層の発展へとつながる一歩として、この「五三会」近畿支部会が皆様のお役に立てればと願っております。

ここに居ります、私共役員一同、一年間という任期ではありますが、本会の発展のため、出来得る限りの努力をいたす所存でございますので、皆様方の御支援を頂きながら、共々に成長してまいりたいと思います。

よろしく、御協力をお願いいたします。

（総会での挨拶より抜粋）

設立までの経過

「五三会」近畿支部
書記　大森正夫（56年卒）

母校から離れた地区に同窓会の支部会を発足するという事の始まりは、卒業生の方々、及び母校の教職員の方々から、大学の内外部相互の交流を促進し、親睦を図ることによって相互に質的活生化を導くことが出来得ないだろうかという声を聞き始めたことによるが、直接の契機としては、支部会の発足の是非を伺う為に、近畿地区在住の卒業生に或る種のアンケート調査的な打診を電話連絡及び口コミ等の方法によって行い、その結果、同窓生が集える機会を待ち望む意見が大半をしめ、中にはすでに或る程度の規模でＯＢ会を催している等の話題も在り、予想以上に地区単位での同窓会の設立を待ち望んでいることが伺われたことと、その旨を「五三会」の役員諸兄に伝えたところ、「五三会」側も卒業生名簿の不備等が原因で、「五三会」の年間会費の未払いの会員が増加しているという運営上の深刻な問題が近年顕在化しており、支部会の設立の兆しを非常に好意的に受け止め、全面的援助の約束を得たことによる。

以下、それからの活動状況を概略的に明示しておきたい。

６月22日、第１回設立準備委員会を卒業生有志により開催する。議事内容は設立の主旨討議、準備委員会での役員の選出、会則の作成及び近畿地区在住の会員名簿の整備方法の検討等であった。役員名簿、及び会則は直ちに本部へ送り承認を得ることとした。

７月21日、第２回設立準備委員会を催し、本部役員会からの報告を説明した後、支部会の設立までの経費概算書に対する検討を行い近畿支部総会へ向けての具体的な決定事項を論議した。

８月中に支部設立の挨拶状及び名簿確認のための返信ハガキを郵送し、同時に電話連絡により名簿整理状況の援助を開始する。

９月14日、第３回設立準備委員会を催し、名簿作成の整理状況を報告。この時点で121名の確認が取れていたが、ハガキの返却状況が以外と悪く80名弱であったので、連絡の便を図る為に各卒業年度ごとの学年幹事をおくこととなる。また、この会で設立総会での諸事項が決定されたので、総会への案内状の配布を開始する。

10月４日、総会準備の為の第４回設立準備委員会を催し、総会の出席予想人数及び会場等の検討を行い、総会で催す諸事項の具体化へ向けての議論をする。

11月８日、総会までの最終的な打ち合せの為に第５回設立準備委員会を催し、総会での運営事項の最終検討、懇親会での催し準備等の打ち合せと、総会予算の検討を行い、各幹事から会員に向けての総会への参加を再度要請する。

11月21日、日曜日、午後２時より「五三会」近畿支部、設立準備総会並びに懇親会を総勢41名の出席を得、開催することが出来た。

総会においては、残念ながら本部よりの来賓としてお招きしていた菅原会長が止むを得ぬ事情により御欠席となりましたが、準備委員長による挨拶に始まり、諸議事項目の⑴活動方針・説明、⑵支部会則・審議、⑶役員選出、⑷幹事選出等も熱心な意見交換の後に決議することが出き、新任の支部会長の挨

拶で無事閉会し、懇親会を前にして来賓の林先生、牛島先生を囲んでの記念撮影を行った。

懇親会は、総会会場に隣接した部屋に移り、支部会長の挨拶の後、母校よりの来賓として来て頂いた林公重先生の御挨拶があり、母校の現況と、将来への展望に対する懇切なるお話を聞くことが出来た。乾杯の音頭の後は、談笑が弾んだが、それは牛島先生とＯＢ諸氏との談話で進んだ母校のスライド映写会が中心となっていたに違いなく、当初予定していた会の終了時間であった４時は、和やかな雰囲気の中で５時半に延長されたのであった。

12月13日、総会でのまとめ、及び今後の方針を決定するために、役員会を開き、最終的な名簿、会計の決算報告等を行う。また、今後の企画等に関しても議論が進み、来年度への展望を図ることが出来始めた初年度末となったのである。

設立したばかりの支部会が、皆様方の御協力により会員相互の親睦を図りつつ、母校及び地域社会に貢献出来得る組織集団になるためのステップを盛大に踏み始めることが出来ました。今後共、御協力をお願いいたします。

超高層ビル雑感

大成建設㈱技術研究所、仕上材料研究室
杉本賢司　(47年卒)

私の勤務先は1万坪の敷地にゆったりと真白いホテルのような建物がならび好きな時に研究所内の喫茶でコーヒーを楽しみ、蔵書が何万冊という図書館と最新のコンピューター、電子顕微鏡、1000 ton アムスラー等を有した設備で自由に研究をしています。

現在、電子線硬化（Electron Beam Curring）の研究をし、今年は2000万でその技術の一部を技術ライセンスしました。

学生時代を思い返してもっと勉強していたら良かったなあと思ったのは論文の書き方と英語で、この2つには入社後巻き返しにえらく苦労させられました。その他、各大学が毎年出版している研究論文集が母校にないのは非常に残念であり、東京に本社をおく企業では入社時の選定で各大学の内容を分析する上で重要なポイントとなっている現在、何とか頑張れないかと考えています。

その他建築学会における発表が全国大会では少なく審査論文集になると皆無なことが残念です。でもたまに地井先生の名前を見るとなつかしく思い出します。建築学会の専門委員会で他の連中は母校のクラスメートとのつながりがありますが、今のところ私一人でとても寂しい思いをしております。でも家に帰れば広工大の同級生が（旧姓実森）共同生活をしておりまして、すでに2人の子供もできましたが、細々ながら毎日クラス会をやっております。

さて、現在の超高層ビルの重さを想像したことがありますか。54階のＳＣＢビルでは地下部分が35万ton、地上部分が20万ton、重心位置が8階あたりにあります。私が新宿の超高層ビルを現在担当しているものにＮ－６ヒルトンホテル40Ｆがあります。現工程は根切りで地下マイナス40mで広島球場クラスのデッカイ穴ボコがあり、その中でトラックやパワーショベルがアリのように動いています。工程が一度崩れるとガタガタになってしまうことから10近い技術委員会に分れてあらかじめ検討・実験をしてから取組んでいます。

今年は不況の嵐が厳しいようですが、苦しい時にあの広工大から見た瀬戸内の海を思い出して頑張りたいと思います。

皆様の御健康を祈って筆を置きたいと思います。

≪近況報告≫

㈱ＩＮＡ新建築研究所九州支店勤務
藤井　洋（51年卒）

はじめに、私の自己紹介から、昭和51年に卒業し、広島に一時就職、その後博多に渡り、現在、ＩＮＡ新建築研究所、九州支店に勤務しております。広大の同窓会には、恐縮ですが、出席したことがありません。同窓生の大半は、広島周辺で御活躍の様子、そうした中では、私は、少しピントはずれの卒業生のようです。

近年、九州も構造不況の波をまともに受け、我支店の業績もあまり、芳しくなく、本社より、支店が独立採算を目ざし、努力するよう至上命令が下り、様々なプレッシャーが、かかってまいりました。お蔭で、ストレス解消のテニスとパチンコに費やす時間も比例して増加し、支店のテニスレベルはかなり上がりました。もともと、本社では、所員が約120名おり、各職種が分業化していることから、民間の仕事が中心であるにもかかわらず、かなりの実績を上げています。が、九州支店の所員は6名で、いくら、公団公社の住宅計画に過去実績があるとはいえ、市浦都市開発、山下設計、佐藤武夫事務所等の公共建築中心の事務所に対抗していくのには、苦しいのが現状です。近ごろは、通勤の途中でも将来の設計事務所、又、設計者像とは？と考えることが多くなりました。先日の新建築にも林昌二が同様のことを書いておりましたが、彼の言う一級事務所自体にも色々問題があり話は単純ではありません。

一方、博多では、最近、学識経験者、管庁関係者、民間設計者を一同に会して、住宅問題について考える会や、ジャーナリズムでは地元から建築関係の雑誌を発行しようという動き、また、今ブームのパソコンを、積極的に、設計業務に取り入れる勉強会の発足等の地方主導型の動きが、目だってきております。

私自身、ふり返って、基礎知識と柔軟性を持った問題処理能力の不足に加えて、情報過剰社会の中での適切な情報選択能力の必要性を痛感してやまない毎日を過しております。

最後になりましたが、同窓生の皆様、博多においでの節は御一報下さい。

「新春放言、御一筆」

アトリエ・ＳＡＨ建築設計室社長
三吉幸夫（47年卒）

今年も大過なく、新春を迎える事が出来ました。年頭に当り指折って数えてみるに、私も工大を卒業してから今年で11回目の正月を迎えた訳で、いつの間にか４年間が遠い昔の事の様に思えてきます。

さて、皆様は年賀状を手にされた時、どんな思いで目を通されるのでしょう。私は山口県柳井市に在住している関係上、工大時代の友人や、先生方や諸先輩方の賀状を見つけると日頃会う機会が少ないせいか、妙に大事に思えてくるし、また今後も大事にしたいという感を強くします。卒業して11回ほど書いてきた訳ですが、中にはただ賀状のやりとりだけで、当の本人同志は何年も殆んど顔を会わせてない連中も居ます。

ところで、賀状のやりとりの有無に関わらず、全く何年間も何の付き会いもないのに、工大卒業生という事のみで、面識をつないだ体験をしたのは、去年の夏の事でした。仕事の関係である方の紹介で会い、名刺交換し、しばらく顔を見会わせた後で『あー。工大時代のお前じゃないか。』『そう云えば、あの時の先輩ですか。』とお互いに言葉を交わし、学生時代の昔が一瞬にしてズームアップされたのです。広島市内あるいは工大の近くに、生活エリアを持っておられる方々は、普段からちょいちょい、こういったケースは体験しておられるでしょうが、少し輪を広めたエリアではこういった種の出会いも稀なケースとなってしまうものです。数字上は私の住んでる附近にも相当数の仲間が居るはずですが、私自身五三会からここ暫くの間、遠ざかっている関係上、適格な接触が得られない状況です。この度のこの投稿を機に今一度、工大というものの私に占める位置を見つめ、五三会への積極的なる参加を期するものであります。

ところで五三会も、年々所帯が大きくなり続ける訳ですから、その運営が本部のみでコントロールしていく事も仲々困難になってくるものと思います。聞けば関西方面に於ては、五三会関西支部が発足したとの事。本部には出来ない小廻りの効く機関としてもその意義は大きい事でしょう。その面から考えれば九州・四国・山陰地区と云った具合にどんどん支部が誕生していく事も喜ばしい事なのかも知れませんが、その為に本部と遊離してしまったのでは本来の目的から外れてしまうようでもあるし……。

常日頃、会の運営に心を配っておられる執行部の方々には、その御苦労に対して敬意を払うものですが、私なりにこの度の投稿に際して放言させてもらうならば、全国各地区でブロック毎に支部を結成して各事務局を持つ。出張や旅行先でその支部の事務局に立ち寄れば、その地区の卒業生の動向を即座にキャッチ出来る。各支部を統轄する本部が五日市町三宅の地に存在する。本部では各支部の活動状況がキャッチ出来、主として教職員の方々との接触が、より大きなウエイトを占める……等々。得てしてこの種の放言をする者は、日頃は会の行事に消極的で且つ会の現況を知らない者の為せる特権と云えましょう。私の場合そのものズバリですので先ず自分自身、現況の五三会への接触を強化していく事から始めようと思っています。

とりとめのない文となってしまいましたが、とにもかくにも私にとって４年間を過ごした工大時代の友人や先生方、諸先輩方はやはり終生忘れ得ぬ人々であるという事に変りはありません。

最後に、私がある方からお聴きした人生観というものを紹介して終りにします。

人間その寿命を72才と設定した場合、この72年の生涯を一日24時間に置き換えてみて、自分の一生を、一日に凝縮してみる訳です。即ち、72才⇄24時間の関係からして、３年間を１時間と見做すのです。誕生の瞬間を午前０時とし、一生を全うする72年後を24時間後の午前０時と見做す訳です。その方法でいくと、我々が工大に在籍していた年令は18〜22才前後の間ですから、午前６時から午前７時少し過ぎの時間を過ごした事になります。そして私の例で云うならば、現在33才ですから、既に午前11時まで人生を過ごしてきた事になります。第１期生の方々は36才を超えている筈ですから、正午を少し廻った人生に差しかかっておられると思います。文字通り中年という年代と云えましょう。さて、皆様は現在何時に差しかかっておられますか。

一つだけ云える事は、我々は工大の４年間を過ごしてきた訳ですから、この人生の時計で数えてみれば、１時間と少々の時間を仲間と或いは師と共に過してきたという事です。

今後、私はこの１時間少々の付き合いを更に深めて２時間・３時間〜と付き合いを増強すべく、友人・知人・先生方を大切にしていく覚悟です。今後共、宜しく御指導の程、お願い申し上げます。　合掌。

1枚のメモから

五日市町役場勤務
宮川謙吉（50年卒）

私は広島工業大学のある地元五日市町の役場に勤めています。昭和50年に工大を卒業後、一般行政職として採用され、現在企画調整課に配属されています。今までプレハブ庁舎でしたが57年に6階建の新庁舎が完成しまして、私の職場の窓から極楽寺の山すそに建並ぶ工大の建物がよく見えるようになりました。しかしそれは母校として意識して見ているわけでなく、ただの建物としてしか私の目には映っていませんでした。

そんな毎日を過ごしていたところへある日後輩ＯＢの“五三会ＯＢだよりを400字詰原稿で2枚程度お願いします”というメモ書きが置いてあり、一瞬「ギクッ」としました。現在役場には、7人の五三会ＯＢがいますが、私が第1号ということで私におはちが廻ってきたようです。

五三会総会にも一度も出席したことのない私にとって思いもよらないことでした。しかし、後輩の頼みを無下に断わるわけにもいかず先輩づらして引受けたものの、何を書いてよいのやら困ってしまいました。あれこれ考えているうちに学生時代の友人やクラブやバイトや大学祭のことなどなつかしい思い出が次々と浮んできました。そんななつかしい思い出の中でちょっぴり苦々しい思い出がありました。

私が4年生の時のことで、卒研の製図を書きあげた翌日でした。卒研ができ上がって天にも昇る気持で友達と徹夜マージャンをしての帰り道に、その友達が交通事故を起してしまったのです。私も居合わせたことから一緒に警察の事故検証を受けたのですが、その時警察官の「工大生か」という偏見的な言動に私は思わず憤慨し、自分の立場もわきまえずに「工大生かとはなんですか」とくってかかりました。

結局、深夜までの警察での事情聴取でこってり絞ぼられましたが、工大生なら誰しもあのような言い方をされればやりきれないと思います。

このことをあえて書きましたのは、工大の社会的評価が、我々ＯＢも含めて大学関係者の全てに、あらゆる機会において本人の意志や人格とは関係なしに関わってくるということを痛感したからです。

社会的評価と言っても漠然としたものですが、良いことも悪いこともひっくるめて、大学の社会的信頼度や地域社会への貢献度として個別的にあるいは全体的に評価されるものと思います。

これは一人の力で一朝一夕に得られるものではなく、長い間かかってＯＢや大学関係者の地道な努力の結晶として築き上げられていくものでしょう。

真面目で仕事熱心な工大生気質と開拓者精神で、これまで工大は創立以来着実な発展をしてきていますが、歴史が浅く社会的評価はまだまだ十分とは言えないようです。

私もＯＢの1人として微力ながら工大の発展のために努力したいと思います。

1枚のメモから私のＯＢとしての自覚を問われたような気がしました。

私の人生観

廿日市町役場税務課勤務
安野昌美　(57年卒)

社会人の仲間入りをして、早くも十ケ月が流れ去ろうとしています。もちろん、まだまだ一人前の"社会人"とは言えないでしょうが、自分なりに楽しく、一生懸命毎日を過ごしています。

私は今、廿日市町役場で税務事務に従事しています。建築学科を卒業した私にとって、畑違いとも思われるこの仕事ではありますが、近い将来きっと技師としての私を必要とする時が来るものと信じて、それまで今の仕事を誇りとし、精進するつもりです。

人生には、人それぞれに色々なことがあります。過去においても、そして、これからの未来においても。過去のいくつかの節目は、今の私を形成し、未来は私を変えていくでしょう。だから、私は一日一日を大切にしたいと思っています。中学、高校、大学、そして就職。これらの時代の移り変りや、人と人との出合い。そんな過去の積み重ねがあって今の自分が、存在するのですから。「もし、あのとき……」。一つ違えば、今の自分は考えられません。だから、過去となる今このひとときを大切にしたいのです。

では、一日を大切にするとは、どういうことなのでしょう。そこで、私は、"自由"という言葉を借りてきたいと思います。自由が許せなかった時代に比べ、自由が氾濫しすぎている時代、自由であってもその自由に気づかない人も中にはいます。ただ、私の言う自由は、時には、わがままな利己主義であったり、時には、気まぐれであったりもします。もちろん、その自由によって人に迷惑をかけるようなことがあっては困ります。ある唄の中にこんな歌詩があります。

人が倖せになるのを
批判する権利は誰にもない
みんな倖せになっていいんだ
人に迷惑さえかけなければね

私はこの一節に、とても共感を覚えました。自由が幸せに置き換えられるものかどうかはわかりませんが、自分の人生は自分のものであり、決して誰かの為の人生であるべきではないのだと。その為には、自由でありたいと。時には、私利私欲のために、また時には、快楽のために、そしてまたある時には、愛する人を得るために。あくまでも、人に迷惑をかけないように。もちろん、拡大解釈のしすぎかもしれません。それこそ、甘い人間だと批判を受けるかもしれません。ただ、自分の言動によって誰かが傷つき、迷惑を被るとしたら、やはりそれは悲しいことだと思います。

今日一日が終る時、やりたいことができた満足感は最高です。たとえ、それが後で何も残らないものであったとしても。生涯の最後に「いい人生だった。」と、思えるよう生きていきたいと思っています。

五三会学生部の活動について

建築学科４年生　　住　田　陽　俊

五三会学生部会は、広島工業大学建築学科における在学生935名中の228名（一年生158名、二年生１名、三年生14名、４年生55名）の会員で組織されており、昭和57年度より活動しております。学生部会の内閣的組織は、会長１名、副会長２名、幹事長１名、会計３名、書記３名を中心に活動部会の建築研究会・スポーツ研究会の二つで構成されています。活動部会は各部ごとに部長１名、副部長３名で構成されており、活動実行委員27名を中心に活動を行なっております。

学生部会の活動内容は定期的年間活動である。懇親会（一年生の歓迎会）・体育祭・大学祭・三宅駅伝大会・卒業式の祝いを中心に五三会コンペへの提出・学内レガッタなど他にもろもろの活動を行なっております。活動の際は、前もって学内へ掲示し紹介しおき、学生会員の参加者をつのり活動を行なっており、参加賞はもちろん各賞を設け受賞しております。

今年が活動最初の年であったわりには、スポーツ研究会に関しては、うまく活動が行なえたと感じております。よくを言えば、スポーツの場であることもありもっと参加者があればよかったと思います。しかし、建築研究部会に関しては、五三会コンペへの提出はよかったが、マイコンを購入し会員にふるに使用してもらう計画があったのですが、あまり使用者がいなかったのが残念でありました。また、最初の計画にあった、同窓生の社会での経験を講演してもらったり、同窓生との会話の場を設けたりして、同窓生との触れ合いの場をもつ計画が実行されなかったことは非常に残念でありました。来年度からは、是非とも行なってもらいたいと願っています。

来年からの活動は、今年以上に活発な活動を行ない、よりいっそう向上し充実した学生部会にしてもらいたいと願っています。また、同窓生のみなさんの援助をお願いします。

「今、思うこと」

建築学科３年生　　松　尾　兆　郎

「ゴサン会？」

「これは、イツミ会ゆうて読むんじゃ、建築学科の同窓会みたいなものよ。」

学生の間でよく聞かれる会話です。五三会とは、学生にとってどういう存在であるべきなのでしょうか。オリゼミの時に説明は聞きますが、それ以後「五三会」という言葉は、ほとんどの学生の頭からは忘れ去られているようです。

昨年「学生部会」が発足しました。初年度ということもあって、会の方向性も定まらないまま一年が過ぎたようです。

基本的に、学生による会ということで、活動にいろんな可能性が含まれていると思いますが、それと同時に、単なる遊びの会に終わらないように慎重な行動も必要だと思います。そういう時に、五三会（卒業生の方々）からの助言は、私たちにとってとても大切なものとなるでしょう。

また、この時期、昨年は、卒業設計作品集を広大と合同で作成しました。スタッフにとって初めてのことで、私費出版だったこともあり、苦しい面が多かったようです。

今年も作品集を、その意義を踏まえた上で作成しようと動いています。その他にも学生独自の活動があり、これからも新しい動きはあると思います。その時に、諸先輩方の適切な助言は、私たちにとって力強いものとなるでしょう。その点で、五三会コンペは、卒業生と在学生の絶好の交流の場となり、諸先輩方の御活躍を知ることができると思います。

そして、それは、私たちにとって良い刺激となり、五三会と私たち在学生とのTotalな繋がりを深めることにもなるのではないでしょうか。

私たち在学生は、諸先輩方と交流を深められることを願っています。

第８回五三会コンペ入選発表

≪コンペ報告≫

第８回五三会コンペは『児童図書館（図書館に附属する）』の課題で行なわれ、昭和57年９月30日をもって締切りました。

応募資格を広島県内所在大学、工専の建築学科学生、卒業生ということもあり、学内から８点（内在学生７点）学外から４点、計12点の応募がありました。

審査は、10月９日広島工業大学建築学科に、審査員、地井昭夫先生を御招きし、厳正な審査の結果次記のとおり入選案が決定いたしました。

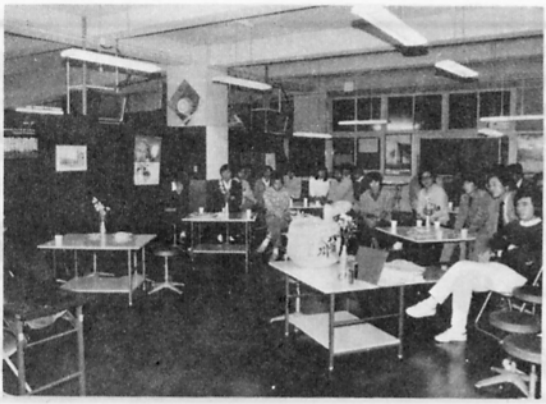
広島工業大学大学祭（10月31日～11月３日）にて全作品展示、11月３日に表彰式が多数の出席者のもとで行なわれました。講評の後、活発な意見交換ができたことを宜しく思います。

ただ、今回所要図面A_1 １枚というにもかかわらず、図面の完成度ということで少々残念に思われました。

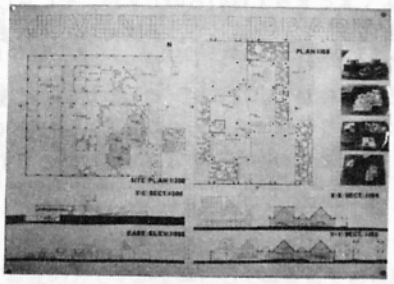
今までのコンペのあり方を十分検討し、回を重ねるごとに、より充実したコンペにして行きたいと考えております。次回も多数の応募をお待ちしております。

五日市町庁舎本館２階ギャラリーにおいて、昭和57年12月17日～24日まで、五日市シリーズ　第６回「町の魅力・五日市」第７回「五日市駅北口広場と街路」第８回「児童図書館（図書館に附属する）」の入選作品を展示発表したことを合せて報告いたします。

第８回五三会コンペ委員会チーフ
北野　俊二



意見交換風景

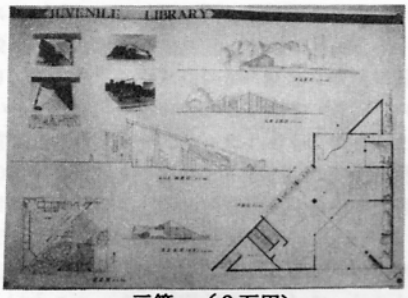


一等　（10万円）
樋　口　泰　昌　　（福山大学）

◦2等案

いわゆる"路地のイメージ"を基本にした全体的な新しいねらいは、かなり成功している作品で、図面も良く画き込まれており、最後まで1等案と並んでいたものです。

ただ難点としては、読書スペースがレベルダウンしていることで、視線、音などの点で実用上かなり問題があると思われたことです。しかし、作者からは当日"レベルダウンしていても問題はない"という強い反論もあったことを附記しておきたいと思います。



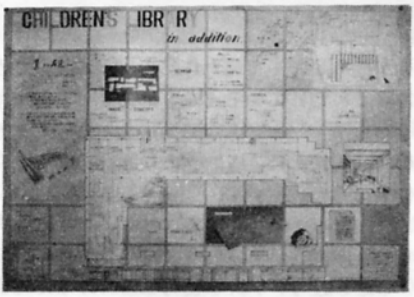
三等　（3万円）
林　　久　人　　（福山大学）

（個別作品評）

◦1等案

この作品は、結局全体的な"まとまり"の良さということだと思います。いわゆる動線計画もしっかりしていますし、一般図書館との関連もよく考えられていますし、図面も大変几帳面に画き込んでいます。また古典的手法としての"グリッドプラン"のこなし方も学生とは思えないぐらい（／）巧妙です。

しかし難点としては、やはりミニチュアの感はぬぐえませんし、また外周を壁で囲んでしまったことの意味が不明確だったと思います。

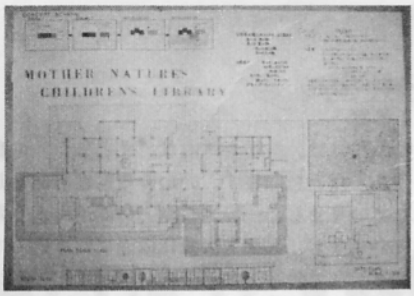


二等　（5万円）
小　島　修一郎　　（広島工業大学）

◦3等案

この案も、古典的な手法で全体を手堅くまとめていると思います。一般図書館との関連や内外空間の扱いも一応成功していると思います。

しかし難点としては、各スペースがいづれも窮屈なことや、天井高が不必要に高いことが気になります。もう少し冒険をして、全体を半地下にし、中庭をサンクン・ガーデンのようなものにする手もあったのではないかと思われます。



佳作　（1万円）

板　井　安　徳
若　槻　　光　　（広島工業大学）

◦佳作（根木・坂田案）

私が最も期待して見た作品で、とくに〝柱が柱を超えよう〟としているところに期待したのですが、もうひとつコンセプトが図面として表現してかかれていませんでした。これが成功すれば、一等にしたい作品でした。

以上、色々と妄言をつらねましたが、最后に本コンペの審査の機会を与えていただいた主催者に感謝するとともに、本コンペの今后の発展を祈って審査評を終ります。

昭和57年11月３日

地井　昭夫

◦佳作（板井・若槻案）

よくまとまってはいるのですが、そこらじゅう〝勉強部屋〟という感じで、子供たちにはあまり好かれないのではないでしょうか。

とくに柱が〝単なる柱〟でしかないのは残念です。柱は荷重を伝達するためのみ、あるいは壁（間仕切り）のためにのみ存在するのではないのです。

佳作　（1万円）

根　木　慶太郎
坂　田　紀　子　　（広島工業大学）

≪総　　評≫

地井昭夫

今回から個人審査になりましたので、全体として審査員の個性とか好みといったものに強く支配されるだろう、ということをはじめに了解していただきたいと思います。

参加作品数は過去最高の12点であり、遠くからも参加者があって大変盛況だったと思います。まず参加者・主催者の方々の健闘を讃えたいと思いますし、このコンペがますます発展することを祈っています。

さて審査の方ですが全体として審査員である私が、いわゆる"象グループ"のナンバーであるということを意識して出品したものはあまりなかったように思われました。その意味で正直に言えば、私の好きな作品はあまりありませんでした。

これは個人的な好みの話だけではなく、実は"新しい児童図書館"のイメージが提起されているかどうか、という意味においても言えることです。その意味で"一等なし"にしようかなとも考えたのですが、審査過程で考え直しました。

そこで以下総評の要点について述べます。

まず、児童図書館は、大人の図書館のミニチュアであってはいけないだろうということです。机と椅子が与えられ、おとなしく本を読む、というのは、大人が勝手に押しつけているものにすぎないからです。言うまでもないことですが、子供たちは"既成のエスタブリッシュメント"から放たれた時、大人の想像を超える可能性を見せるものです。

今日、日本の子供たちはいかに悲惨な状況に置かれているでしょうか。いわゆる子供の"非行"（正しい言葉とは言えませんが）にしても、こうした"大人の勝手"に対する警告であるという側面を見抜かなければ、ほとんど新しい空間を生み出す想像力は形成されないといえるでしょう。

例えば、3等案（林君）には"お母さんのスペース"というユニークな提案がありました。しかし、これも"一歩誤まる"と図書館でも、教育ママに干渉されるという"地獄"になりかねないのです。しかし、これは机と椅子という道具を否定する訳ではありません。

そうではなくて、そうした諸手段を用いて、子供たちの野放図な想像力を誘発するような空間の仕組み、装置というものを呈示してほしかったわけです。そうした意味では佳作の根木・坂田案は、かなり期待して見ました。しかしもう一歩（図面表現やコンセプトの弱さ）というところで本当に惜しいという感じでした。

次に図面について、少し私の考えを述べたいと思います。そもそも私は、図面というのは丁寧でなければならないと常々考えています。これは、定規で画くとか細かく画き込むとか言う意味ではありませ

ん。"丁寧"ということは、"分りやすく"また"優しい"ということだろうと思うのです。今回は、図面が一枚ということもあり、"分りにくい"ものが多かった気もします。

また"優しい"ということは、独りよがりではないということです。例えば、いくらコンセプトが立派でも、引かれた線が、分りにくく、独りよがりのものは、私は好きになれません。その意味で、建築家の線というのはぎりぎりのところで自己主張やエゴイズムをコントロールしなければならないでしょう。これは、ほとんど建築家の宿命であって、ファイン・アートと異るところですし、むしろ"優しさ"とは"祈り"に近いものだろうと私はいつも考えています。

地域計画と多く取り組む私の場合も、その線はつねに"祈り"であることを止める訳には行きませんし、地域の人々とどのような"祈り"を共有できるのか、が私の地域計画の基本的テーマのひとつでもあります。これはまさにPROJECTの意味が"身を投げ出す"ことであることによっても明らかでしょう。

今回のコンペに即していえば、"子供たちのするどい眼光"の前に、大人の建築家がいかに"裸になる"ことができるのかが試されているのです。こうした"優しさ"こそが、機能主義を超える唯一の方法だと、私はガンコに信じています。私達大人の眼は、全くもって"腐っている"のです。残念ながら……。こうした"自己懐疑"の回路を失った建築家・教育者・研究者は、もはや何の創造も為し得ませんし、そうした社会をかって、スペインの哲学者オルテガ・イ・ガセは、いみじくも"大衆社会"と呼んだのです。話は飛んでしまいましたが、この辺で総評を終ります。

第9回五三会コンペ作品募集

・課　題　　学生会館

五日市町に学生会館を計画することを、今回の課題とする。その機能・イメージは学生相互の交流を主軸としたものとしたい。利用対象は、基本的には、五日市町内にある大学の学生とするが、他大学の学生との交流、また、地域住民との交流もはかれるよう、これらの利用も考慮されたい。気軽に利用できる学生会館であると共に、自由なコミニケーションの場となるような計画を期待したい。なお、学生会館のイメージについては一応の設定をしたが、更に自由に展開されてもよい。

・審査員　　森　保　洋　之（モリヤス　ヒロシ）

昭和43年　千葉工業大学建築学科卒業（東京工業大学、社会工学科に籍をおいたのち）

昭和44～55年　東京工業大学、建築学科、助手（この間、東京工業大学の大学院学生の指導を命により行う）

昭和54～56年　宇都宮大学、建築工学科、講師（併任）

昭和55年　工学博士（授与校、東京工業大学）

昭和56年　広島工業大学、建築学科、助教授（現在に至る）

専門：建築計画、地域計画

著書：建築設計資料集成（新版、全巻）（編集、執筆）丸善

：高層集合住宅の設計計画（編集、執筆）彰国社

作品：幼稚園、小学校、図書館、市民会館、婦人会館、病院、ニュータウン計画、駅前計画、都市計画他

論文・調査報告：多数

・規　模　　延床面積　　1000㎡程度

・所要図面　　A_1 1枚に位置図、平面図、立面図、断面図、模型、写真、パース、スケッチ等設計意図を表現するために必要な図面を各自選択して描くこと。ただし説明は必ず記入すること。

・表　現　　自由とする。

・応募記載事項　作品の裏面に、応募者の住所、氏名、電話番号、学校名を記入すること。

・応募締切　　昭和58年9月30日（金）正午
郵送の場合は9月30日消印有効

・提出先　　〒738 広島県佐伯郡五日市町三宅
広島工業大学建築学科事務室

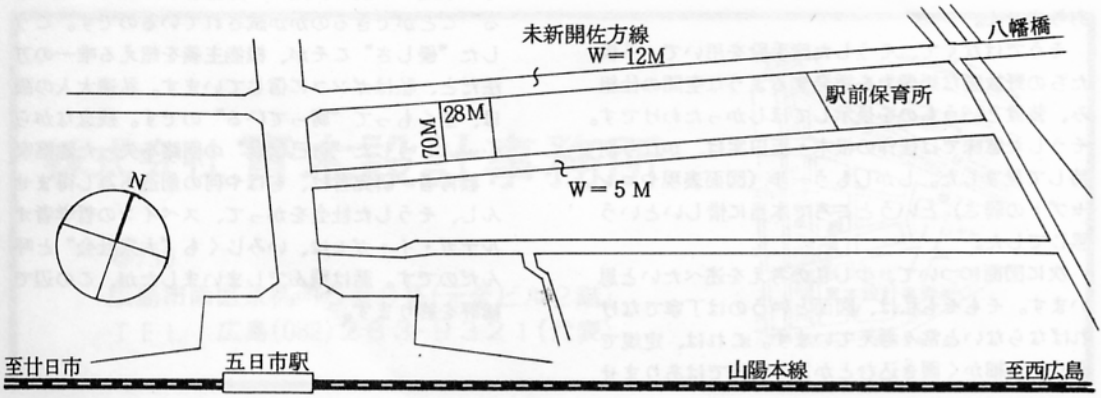
・応募資格　　広島県内所在大学、工専の建築学科学生、卒業生。

・入選賞金　　一等　1点　10万円
二等　1点　5万円
三等　1点　3万円
佳作　2点　1万円
外　参加賞

・入選発表　　応募者に通知するとともに、大学祭（11月3日）にて発表、表彰、展示

・その他　　作品の返却はしない。
質疑応答なし

・場　所　　五日市町駅前1丁目



第10回総会のお知らせ

日　時　昭和58年5月21日（土）
　総　会……午後4時30分
　懇親会……　5時30分

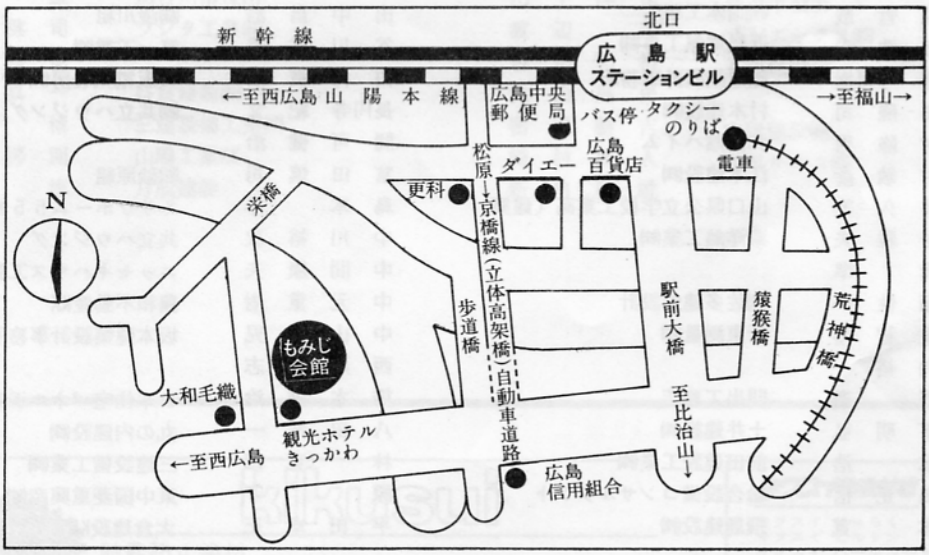
場　所　広島市中区上幟町7－7　もみじ会館　TEL（082）228－3161・3162

内　容　建築学科同窓生五三会員全員が参加し、建築学科各教職員の参加を求め、五三会活動報告と、会計発表を行ってのち、大広間において、酒と豪華な料理で、昔話や同業としての話で親睦をはかる。

参　加　参加者は、下記事務室に電話連絡か、又は官製葉書に"出席"と書いて5月7日必着をもって申し込み下さい。
　あて先
　広島県佐伯郡五日市町三宅　広島工業大学建築学科事務室
　〒738　TEL（0829）21－3121　内322

会　費　3,500円
　当日御持参下さい。前売券も発売しております。

〔案　内　図〕



もみじ会館　広島市中区上幟町7番7号　TEL228－3161・3162　〒730

五三会の皆様へ

講師　佐藤立美

五三会の皆様、お元気でしょうか。五三会も結成以来10周年を迎えられ、会員も3,000人余の大所帯となっていると聞いております。会員の皆様もそれぞれの職域で大いに御活躍の事と存じます。

このところ、建築業界は景気の低迷期にあり、また、このたびの約50年ぶりの建築基準法の改訂により、受注・設計に関して大変な状況下にあると思いますが、頑張って下さい。

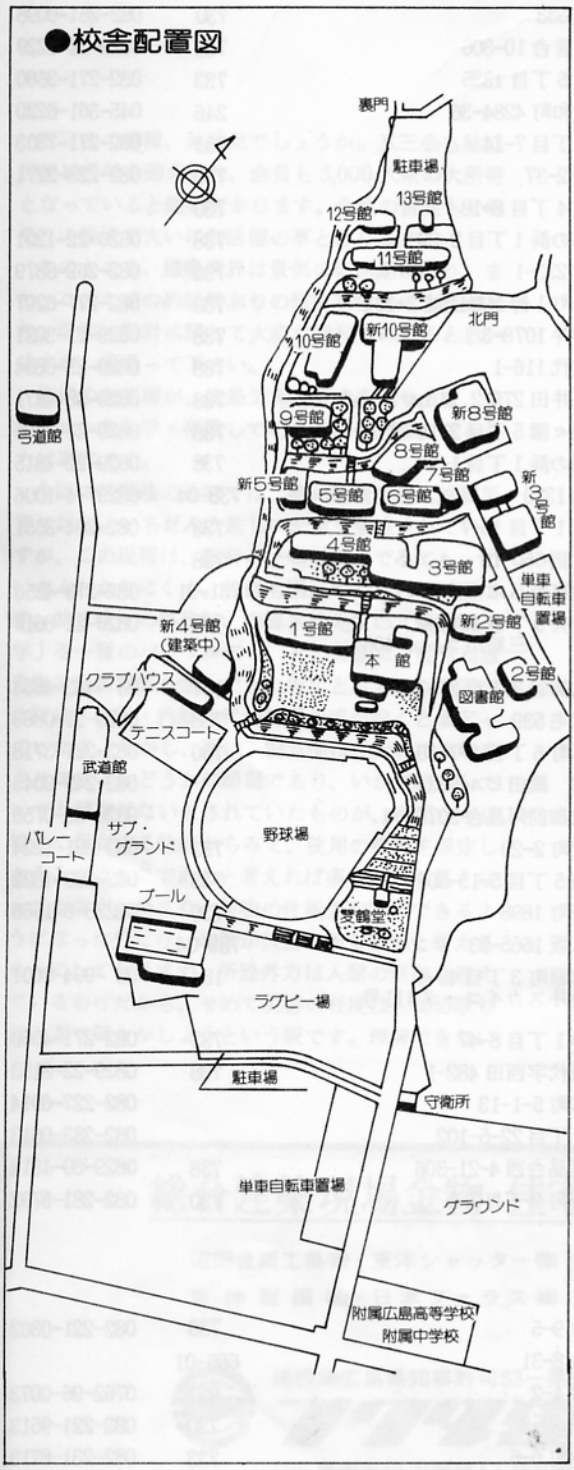
皆様の御活躍が、広島工大の歴史を創り上げ、またこれから入学・卒業していく若人の目標になることは事実です。

今回の基準法の改訂では、特に耐震規程は地震災害に対し、いちだんと厳しい配慮を要求されていますが、この規程は、設計の立場で読んでみても、ずいぶんわかりにくく、皆様も困っておられる様子です。特に我々の年代は、内藤多仲先生の「建築構造学」を一種のバイブルにし、その背景に、佐野利器先生の耐震哲学を学んできた者にとっては、今回の改訂は、佐野・内藤時代の終焉の感が強くとまどっています。しかし、要は、前基準は二元的で水準をクリアするかどうかの問題であり、いかに超過していても問題はないとされていたものが、今回からは、構造の保有する性能からみて、使用の範囲を限定しようとするものであると考えれば多少わかり易くなってきます。つまり、建物の性能表が明示できるようになった分だけ、建築が技術化して来たと考えることにしております。所詮外力は人間の制御を超えているわけだから、せめて災害の程度は人間の取り組み方で何とかしようという訳です。理解できない自然の摂理は多いが、それをカバーするのはやはり人間であり、そのための努力は必要であり、更に努力をいとわない態度が重要であると考えているこのごろです。内藤先生の「建築と人生」の表紙が郡盲撫象の図であった事を深く記憶しております。

そういう訳で、皆様と共に、皆様の母校広島工大も今后ますます努力をおこたらない様努めますので、今后ともよろしくお願いします。また、皆様に困った問題で、我々が助言できない事があればいつでも御相談下さい。

最后に、昨年の新入生オリゼミで非常にユニークな建築論を話してくれ、今後多いに期待していた、小谷真行君が昨年末交通事故で他界されました。つつしんで御冥福をお祈り致します。

広島工業大学キャンパス案内



- ●本　館
  総長室・学長室・学園本部・大学事務局・食堂・売店
- ●1 号 館
  一般教室
- ●2 号 館
  工作室・倉庫
- ●新2号館
  土木工学科の実験室・研究室
- ●3 号 館
  体育館・土木・建築学科の実験室・製図室・研究室
- ●新3号館
  建築学科の実験室・研究室
- ●4 号 館
  一般教室
- ●新4号館
  一般教育・経営工学科の実験室・研究室および電子計算機センター
- ●5 号 館
  一般・基礎教育の実験室・研究室および一般教室
- ●新5号館
  基礎教育研究室・実験室
- ●6 号 館
  機械工学科の実験室
- ●7 号 館
  機械工学科の実験室・実習室
- ●8 号 館
  機械工学科の実験室・実習室・電子顕微鏡研究室
- ●新8号館
  機械工学科の実験室・研究室・ゼミ室・資料室
- ●9 号 館
  一般教室・学生食堂・理容室
- ●10 号 館
  電子・電気工学科共同実験室・一般教室・TM教室・学生食堂・売店
- ●新10号館
  電子・電気工学科の実験室・実習室・製図室・研究室
- ●11 号 館
  電子工学科の実験室・研究室
- ●12 号 館
  高圧実験室
- ●13 号 館
  電子・電気共同工作室
- ●図 書 館
  閲覧室・自習室・書庫・共同研究室・視聴覚室・会議室
- ●武 道 館
- ●プ ー ル
- ●弓 道 場
- ●クラブハウス
  学生のクラブ部室
- ●雙 鶴 堂
  同行庵（茶室）・和室

五三会活動報告

幹事長　手越義昭

広島工業大学建築学科同窓会、五三会も現在では会員数3,000名余を数える時代となり、広島地区では、今や建設業界のあらゆる分野にゆきわたり、数の上では相当の割合を占める様になりました。又、数の上だけでなくその技術面及び質的にもそれぞれの業界での評価は高まってきており、社会的にも重要なポストへ位置する人も出初めました。卒業生一同これを基盤として今後尚一層活躍したいものです。

会員各位は同窓生の親睦、情報交換の場として、「五三会」を活用していただきたい。

又、同窓生が増すにつれ、各幹事の仕事量も増えており、会員各位の深い御理解をお願いしたいと思います。

さて本年の活動としては、次の様な行事を行なってまいりました。

1. 総　会

本年度の総会は昭和57年4月29日に、広島工業大学本部同窓会と同じ日に、広島校舎にて行ないました。

又、当日の懇親会は本部同窓会と合同で行ない参加者の大多数は建築学科卒業生でありました。

2. 会　報

毎年1回発行し、各同窓生の情報交換の場として様々な企画を行なっております。

3. 在学生を対象とした卒業研究の優秀賞

建築学科の学生であることの自覚を持つこと及び建築学科の同窓会である五三会をより深く理解していただくという意図で、本年も優秀な卒業研究に対して、五三会賞を送りました。

4. 設計コンペ

本年度から、五三会コンペとして卒業生、在校生、及び広島県内の大学、高専の建築学科学生を対象として実施しました。

5. そ の 他

本年は、近畿地方で支部設立の気運も高まってきており（来年度は設立予定）ます。

又、同窓会名簿の作成、各職場での交流etcも、当会を利用して行なっております。

会員各位の深い理解と参加を期待しております。

〔昭和56年度 決 算 報 告〕

◆ 収入の部

繰越金	843,589
新会員会費	375,000
会員会費	198,000
広告料	930,000
雑収入	3,646
計	2,350,185

◆ 支出の部

印刷費（会報・封筒）	298,000
郵送費	313,920
会議費	180,500
活動費	82,500
総会負担金	102,440
コンペ費	219,910
在学生援助費	60,000
バイト費	30,000
消耗品及び雑費	520
繰越金	1,062,395
計	2,350,185

〔昭和57年度 予 算 案〕

収入の部		支出の部	
繰越金	1,062,395	印刷費（会報・名簿・封筒）	1,100,000
新会員会費	390,000	郵送費	500,000
会員会費	315,000	会議費	180,000
広告料	1,650,000	活動費	50,000
雑収入	5	総会負担金	100,000
		コンペ費	240,000
		在学生援助費	50,000
		学術文化分科会費	50,000
		バイト費	30,000
		消耗品及び雑費	30,000
		予備費	1,087,400
計	3,417,400	計	3,417,400

広島工業大学建築学科同窓会
「五三会」会則

第一章　総　則

第 1 条　本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。

第 2 条　本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。

第 3 条　本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。

第 4 条　本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。

1　集　　会
1　会員相互の連絡並びに共助に関すること
1　会誌及び会員名簿の発刊
1　母校建築学科に対する精神的、物質的援助
1　その他本会の目的達成に必要な事

第二章　会　員

第 5 条　本会は下記の者を以って組織する。

1　会　　員　広島工業大学建築学科卒業生
1　学生会員　広島工業大学建築学科在学生
1　客　　員　母校職員及び旧職員
1　名誉会員　本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者。

第三章　役　員

第 6 条　本会は下記の役員を置く。

1　名誉会長　置くことができる

1　会　長	1　名	1　副会長	2　名
1　会　計	2　名	1　会計監査	2　名
1　幹事長	1　名	1　幹　事	若干名
1　評議員	各卒業年度に若干名	1　書　記	2　名

第 7 条　本会の役員は次の方法で決める。

1　名誉会長は総会をもって推す
1　会長・副会長・幹事・会計・会計監査・評議員は総会で正会員の中から選ぶ
1　幹事長は幹事の中から互選する
1　幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する

第 8 条　各役員はそれぞれ次の任務をもつ。

1　会　　長　本会を代表し会務を統べる
1　副 会 長　会長を助け支障がある時は代理する
1　会　　計　会計事務に当る
1　会計監査　会計を監査する
1　幹 事 長　会務を主掌する
1　幹　　事　会務を処する
1　評 議 員　会務を評議する

第 9 条　役員の任期は一カ年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充しこれによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章　顧　　問

第１０条　この会に顧問若干名をおく。

1　顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
1　顧問は会の諮問に応じる

第五章　会　　議

第１１条　会議を分けて定期総会、臨時総会及び役員会とする。

第１２条　総会は最高の議決機関で毎年１回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。

第１３条　総会は次のことを決める。

1　会則の変更と改正　　1　決算及び予算
1　役員の改選　　1　その他重要な事

第１４条　役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。

1　総会に附議する原案　　1　この会の運営に関する諸事項
1　その他緊急事項の協議

第１５条　会議の議決は会員の参加者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章　会　　計

第１６条　この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。

1　会員は入会金と終身会費として、入会時10,000円を納入しなければならない。
1　学生会員は在学期間の会費として2,000円を納入しなければならない。

第１７条　この会の会計年度は４月１日に始まり、翌年３月３１日に終る。

付　　則

終身会費については、昭和５８年度から施行する。

役員の変遷

◆昭和48年度

会長	菅原 辰幸(44)
副会長	青木 能典(44)
	井上 隆寿(48)
会計	小田 正志(45)
	平林 三鈴(48)
会計監査	秋本 孝(44)
	有田 三郎(44)
書記	石原 勝博(45)
	古賀 照明(48)
幹事長	金堀 一郎(45)

◆昭和49年度

会長	菅原 辰幸(44)
副会長	青木 能典(44)
会計	坂本 和人(45)
	手越 義昭(49)
会計監査	有田 三郎(44)
	村上 忠義(45)
書記	古賀 照明(48)
	近松 一雄(48)
幹事長	金堀 一郎(45)

◆昭和50年度

会長	菅原 辰幸(44)
副会長	青木 能典(44)
会計	近松 一雄(48)
	村上 忠義(45)
会計監査	椋田 克生(44)
	有田 三郎(44)
書記	馬場富次郎(46)
	稲場 孝二(49)
	大原順二郎(46)
幹事長	勝田 民雄(45)

◆昭和51年度

会長	秋本 孝(44)
副会長	椋田 克生(44)
	渡辺 武彦(44)
会計	上之 博文(50)
会計監査	青木 能典(44)
	岩田 幸二(47)
幹事長	生田 文雄(47)

◆昭和52年度

会長	知野 吉春(44)
副会長	勝田 民雄(45)
	徳清 秀夫(46)
会計	河内 浩志(52)
会計監査	吉川 澄生(44)
	津田 靖文(50)
幹事長	上之 博文(50)

◆昭和53年度

会長	菅原 辰幸(44)
副会長	坂本 知人(45)
	加藤 寛治(45)
会計	岩本 慎二(53)
会計監査	吉川 澄生(44)
書記	下 健蔵(47)
幹事長	金堀 一郎(45)

◆昭和54年度

会長	菅原 辰幸(44)
副会長	生田 文雄(47)
	徳清 秀雄(46)
会計	横川 博之(54)
	管 隆二(50)
会計監査	上之 博文(49)
書記	岩田 幸二(47)
幹事長	下 健蔵(47)

◆昭和55年度

会長	菅原 辰幸(44)
副会長	生田 文雄(47)
	下 健蔵(47)
会計	手越 義昭(49)
	菅 隆二(50)
会計監査	馬場富次郎(46)
書記	林 憲和(50)
幹事長	中島 伸夫(49)

◆昭和56年度

会長	菅原 辰幸(44)
副会長	下 健蔵(47)
	生田 文雄(47)
会計	背尾 宜徳(52)
会計監査	菅 隆三(50)
書記	森田 洋生(47)
幹事長	手越 義昭(49)

◆昭和57年度

会長	菅原 辰幸(44)
副会長	下 健蔵(47)
	生田 文雄(47)
会計	坂田 光彦(48)
	清水 康考(54)
会計監査	背尾 宜徳(52)
書記	森田 洋生(47)
	佐々木正治(48)
幹事長	手越 義昭(49)

編集後記

会報紙「五三会」は、昭和48年、建築学科同窓会「五三会」の結成以来、今回を持って第10号になりました。

当時は、8頁程度のミニコミ紙風のものでしたが、年々、会員数が増え、社会で活躍されるにしたがって、スポンサーも増え充実したものをつくることができるようになりました。

会報誌の印刷、郵送費等は全て広告費によってまかなっており、今回の発刊にあたっても会員の皆様から多数のスポンサーを紹介していただきました。どうもありがとうございました。

今後も会報誌を一層充実したものとして存続するためにはスポンサーの協力なしには考えられません。会員の皆様方の協力スポンサーに対するご利用をお願いします。

今年度は、近畿支部が結成されたこともあり、掲載原稿は広島を遠く離れた地域で活躍されている方々を中心にお願いし、特に、近畿支部を中心に掲載する予定でしたが、思いのほか原稿の集まりが悪く中途半端な内容となったことをおわびします。

また、今回、寄稿していただきました皆様どうもありがとうございました。

今後、会報誌の内容も、会員の皆様が日頃活躍されている様子や研究発表など情報交換の頁も載せバライティーに富んだものとするよう考えております。

会員の皆様、近況や研究発表、意見など何でもよろしいですので事務局までお寄せ下さい。

最後に、この会報誌が会員の皆様に親しまれ相互の結びつきをより一層高めることを期待すると共に皆様方の御活躍を心からお祈りします。

「五三会」　第10号　編集委員

生田文雄
安井英三
津田靖文
前田伸彦
水田利寛
中村英雄

広島工業大学建築学科同窓会誌

「五三会」第10号

編集責任者　生田文雄

発行責任者　菅原辰幸

印刷所　株式会社ミウラ

発行　昭和58年3月1日